



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/14 (月)	+ 700	▲ 2,900	▲ 2,200	源泉所得税揚げ 社会保障費支払い 国庫短期証券発行・償還 (3M) 流動性供給	CP等買入 ▲ 200 国債買入補完オペ + 12,400		海外: 米中首脳会談 (インドネシア・バリ島)
11/15 (火)	▲ 1,000	▲ 3,000	▲ 4,000	個人向け国債発行・償還			日: GDP (3Q) 鉱工業生産 (前月比 9月) 欧: ユーロ圏GDP (3Q) 海外: G20首脳会議
11/16 (水)	トン	▲ 28,000	▲ 28,000	国債発行 (5年)			欧: ECB総裁、講演 英CPI (10月)
11/17 (木)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000				日: 貿易収支 (10月) 米: 新規失業保険申請件数 欧: ユーロ圏CPI
11/18 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	国債発行 (20年)	被災地金融機関支援 -488		日: 全国CPI (前年比 10月) 欧: ECB総裁、講演

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、490兆9,300億円から始まった。その後、9日の国債買入要因により492兆1,200億まで増加し、10日の財政等要因により490兆3,200億まで減少した。週末となる11日は特に大きな変動要因はなく、490兆1,400億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、3日積み要因剥落のためビットサイドの調達意欲の減退が見られたが、一部の金融機関によるプラス圏での試し取りが行われたため、横ばいの△0.054からスタートした。その後は地銀業態を中心に調達ニーズが減退したことで、週を通して同金利は下降し11日には△0.068%となった。

ターム物は10月積み期内までの取引を中心に△0.065%~△0.050%のレンジで取引された。

来週の主な予定として、国内では15日にGDP (3Q) および鉱工業生産 (9月) の公表、18日に全国CPI (10月) の公表が挙げられる。海外では15日にユーロ圏GDP (3Q)、11/17ユーロ圏CPI (10月) の公表が挙げられる。

<レボ>

足許GC取引は△0.08%台で始まり、週を通して同水準で推移した。国庫短期証券3M、6Mの発行があったがレート水準に変化は見られなかった。SC取引は2年435~442回債、5年146~154回債、10年350~368回債、20年179~182回債、30年65~76回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額 (約5,100億円) を上回った。発行市場は、電気機器や石油製品、鉄鋼等の幅広い業種で大型の発行が行われた。発行残高は先週末の26兆3,547億円から、10日時点で26兆5,999億円と増加した。市場残高は引き続き高水準で推移しており、発行レートは、0%から小幅なプラス圏での出合いが中心となった。

来週の週間償還額は、約5,200億円となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、活況なマーケットを予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅広いレンジ圏での出合いを予想する。

<TDB>

11月9日の6M1119回債の入札は、最高落札利回り△0.1007% (前回債△0.1591%)、平均落札利回り△0.1148% (前回債△0.1712%) となった。11月11日の3M1120回債の入札は、最高落札利回り△0.1061% (前回債△0.1079%)、平均落札利回り△0.1113% (前回債△0.1176%) となった。来週は17日に1Y (1121回)、18日に3M (1122回) の入札がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	△0.060 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005